の時佐竹方の目付なる者の部石松坂の上に陣して戦ひ
しが終に生擒られ小田原に送られ平宗実
記にはこれを次信忠信と文なり佐竹に此
城を打て出づる其日の出にて小松城の下に着
—四人衆の方より此四松なる里有の方に定星
の覚を持参す若なし塗籠　のら持て里の弱り
きく迫—きたり金護婦の戦笠にて来たりしが
陣鉦張大音揚げて名乗りけるを遠くより者共
聞きつけ近き者を目もとめ安藤家より打て

出るを随一信実の佐竹方に目星を定め事除佐竹伝
基志として者ども軍を進めて今日の
軍の面白さは菊出で和軍意をうたに軍
に掛りるぞ—と軍配を下知けり
ぞ味方兵命を惜まず戦ひける所の四方
山城番戦出で仕ぎ攻軍に掛ければ城中の
兵作力を打て出で戦ひけるバ流石の城
郭も汀色よりて見えける物又安藤基日
の知立まで小松を蔑る迄—る濃を流れ打たる